

## 学校紹介

## 静岡県立

## 静岡農業高等学校

- 創立 大正3年(1914)
- 静岡市葵区古庄3丁目1-1
- 電話054・261・0111

農業分野を中心に地域産業界に貢献する将来のスペシャリストを育成しています。

環境科学科では、①地域の環境を考えた土木計画、設計・土木施工、エネルギー教育を学ぶ環境土木系列、②地域の環境に配慮した造園計画、施工管理及び自然環境の保全を学ぶ環境緑化系列、③人間の生活にあわせて快適な環境デザインを学ぶ環境デザイン系列の3系列に分けて専門教育を展開しています。



平板測量競技会全国大会

<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/shizuoka-ah/home.nsf/IndexFormView?OpenView>

の1992年は建設投資額が84兆円ありましたが、リーマンショック後の2009年は39兆円に半減。就労者数も減らざるをえませんでした。

建築設計事務所を経営しています。5年前までは、東京や名古屋の大学の建築学科の卒業生が戻って来てくれて採用できたのですが、この4年間は採用活動に苦戦しています。継続的に採用していかないと、組織のバランスがとれないので、昨年は科学技術高等学校の卒業生と大手ゼネコンの元社員を採用しました。次の時代を担う若者の採用に危機感をもっていて、静岡理工科大学の建築学科に期待しています。

静岡市の建築設計事務所29社で組織する協同組合では、30周年事業として、安藤忠雄さんに建築設計の魅力を語っていただく講演会を来年2月16日にグランシップで開催します。ぜひ学生の皆様に聴いていただきたいです。

### インターンシップは学生に建設産業を知らせる最も良い方法

**市川** バブルの頃「建設業は3Kだから」と言われたので、建設業協会青年部として、工業高校と農業高校を訪問し、「生徒たちの現場体験学習(インターンシップ)をやりませんか」「建設産業で働いている学校のOBから社会人の生の声を聴き、意見交換しませんか」と提案し、OKをいただきました。しかし、バブル崩壊後は人を採用できなくなり、建設会社も半減しま



第一建設(株)  
代表取締役社長

市川照 さん

建設現場から人海戦術  
の道具が無くなり、  
機械化が進んでいます。

した。

東日本大震災の復興需要と2020年東京オリンピックの決定で、職人がいない状況になりました。そこで、国は「担い手3法」を成立させ、労務単価も上がり、現在は建設産業にフォロワーの風が吹いています。そしてインターンシップが注目されているわけですが、改善すべき点はありませんか？

**西村** インターンシップは静岡・清水の建設業協会の御協力を得て、夏休みに4日間行われ、楽しみに参加する生徒が多いです。実際の現場で、測量して、構造物をつくる経験ができたり、様々な建設機械を見たり、生きた教材がたくさんあります。また、インターンシップ先に就職した先輩方の頑張っている姿を見ることが、建設産業へ進む生徒が増えています。なかには、インターンシップで自信を失ってしまう生徒もいますが、インターンシップは非常に有難いと思っています。

**坂本** 1996年、当校の前身の静岡工業高校の時にインターンシップを始めて、科学技術高校では全員参加で実施しています。当初は静岡建設業協会にお任せしていました。その後、生徒の進路希望や

通学範囲の広がりに対応して選択肢を増やし、今年度は、国交省、静岡県、静岡市、静岡建設業協会、清水建設業協会、測量設計業協会、日本道路に依頼し、幅広い業種を体験できるようにし、今年からは5日間で実施します。インターンシップが卒業後の進路選択に与える影響は大きいと考えています。

2012年に開催した「都市基盤プロジェクト会議」は、地元の建設産業の皆様にも本科の様子を理解していただくとともに、本科は企業の皆様がどういう考えでいるかを理解する機会として開催しました。バブル崩壊以降、地元の建設産業からの求人は減少し「高卒では一級土木施工技術検定を取得するまでに時間がかかるので、大卒の技術者を採用する」と聞いていたのですが、時代が変わり、高校生は建設業に興味がないと考える企業経営者が増えていました。

そこで、「プロジェクト会議」で、「本科の生徒は建設産業に進みたい気持ちを持っているが、地元の建設産業から求人が少なく、他の業種に変えざるをえない状況」とお伝えしたところ、会議の直後に数社から求人をおいただき、実際に就職することができました。

「都市基盤プロジェクト会議」を通して、地元の建設産業からの求人が増え、地元の建設会社への就職者数が増えていく機会になりました。建設産業と学校が継続的に情報交換を行うことで、就職採用活